◉東京湾奥東大井発↓川崎～本牧沖

シーズン初期は良型も！東京湾のエビメバル開幕

本誌編集部／近田憲男 Norio Chikada

東京湾に春を告げる風物詩ともいえるメバル釣りが2月に開幕した。この釣りは生きたモエビエサを使うことから「エビメバル」とも呼ばれている。

近年は釣れてうれしいゲストとして人気のカサゴが多く交じるようになり、メバル&カサゴ乗合として出船する船宿が増えている。ただし釣り方や仕掛け、エサは従来どおりエビメバル仕様のまま。

2月2日に取材した東京湾奥東大井の「いわた」もそのうちの一軒で、1日は海況が悪く、2日が今シーズンの初出船となった。

▲春が近づくにつれメバルの好期に突入する

良型メバルでスタート

6時半過ぎに桟橋に到着。メバル&カサゴが得意なベテランの古高亘船長にあいさつすると、初日のためなるべく多くのポイントを探ってみたいと言っていた。

全員そろえば準備ができ次第出船するとのこと（通常は7時に集合、7時半出船）。皆さんそろっていて準備は万端の様子。北風がやや強く吹く中、私を含めて乗船者6名で定刻より少し早めの7時過ぎに出船となった。

▲アタリがきても動かさずに食い込むのを待つ

メバル、カサゴは東京湾のほぼ全域に生息しているが、同船が狙う釣り場は神奈川県側の川崎沖や横浜～本牧沖の水深20～30メートル前後、護岸際や建造物の周辺の岩礁帯や根周りなどライトアジで狙うポイントに近い感じだ。

いわたの船宿仕掛けは、全長1.8メートルの胴つき3本バリ。枝ス1.2号35センチ、幹糸3号、枝間60センチ、捨て糸部分は20センチとやや短めで、ハリはメバル9号。枝スは幹糸に直結してある。オモリは20号で統一。

エサは3～4センチ前後の小さなエビだが、殻がしっかりしており扱いやすい（付け方はカコミ記事参照）。

メバル釣りのコツは仕掛けを底近くでキープし、静かに待ち、アタリがきても慌てず向こう合わせ気味に掛けること。メバルのアタリが分かりやすく伝わるのは、オモリを底に着けて軽く道糸を張って待つ状態だが、そのままずっと動かさないと根掛かりしてしまうので、数秒待ったらゆっくり1メートルほど仕掛けを上げ、再びゆっくりと底に戻す。この操作で根掛かりを避けるとともに、エサをアピールする誘いの効果も得られる。

仕掛けはゆっくり動かすことが大切で、シャクるように速く上げたり、ストンとオモリを落とすように戻しては、メバルを散らすことにもなり逆効果になる。

古高船長が最初に選んだ釣り場は川崎沖の建造物周り。ここは良型の実績が高いポイントらしい。

開始早々、右ミヨシの霜鳥さんの竿が絞り込まれ、上がってきたのは26センチの良型メバル。続いて右ミヨシ2番の山田さんが追い食いを狙って20センチ級のメバルのダブル、さらに右トモの吉武さんも18～20センチのメバルのダブルと続く。

幸先のいいスタートを切ったかに思えたが、まだ寒いためかメバルの活性は高くなくバリバリと入れ食いになる感じではない。

何カ所かポイントをずらして粘ってみたが、左舷で20センチ前後のメバルを数尾釣り上げたのみで移動となる。

しかし次に向かった横浜沖も状況は変わらず。ここもスパッとあきらめ、今度は本牧方面へ向かう。

メバル釣りはアタリがなければ次つぎとポイントを移動する。古高船長もポイントの見極めが早いため、釣っていて飽きることなく楽しめる。

カサゴ優勢の展開に

10時過ぎ、本牧沖の水深20～30メートルで再開。そろそろ潮が効いて食い出すはず……と思っていたら、まさにそのとおりになった。

護岸際に沿って流し始めると船内あちこちで竿が曲がり、メバルに交じってカサゴが次つぎと上がり、メバルを上回る勢いで釣れてくる。

本牧沖では同じポイントを狙い続けると場荒れするので、船長は食い気のある場所を転々と探っていく。

11時過ぎ、私も今シーズン初物を釣るべく、空いていた右胴の間に入り竿を出す。仕掛けを投入し着底したら糸フケを取ると、いきなりコツッと小さなアタリ。竿をゆっくり立ててハリ掛かりしたことを確認してから巻き上げると上のハリにメバルが掛かってきた。

2投目も仕掛けが着底してすぐにゴゴンと派手なアタリで今度はカサゴ。その後も同じパターンでカサゴが5連釣、まるでエサが落ちてくるのを待っているかのような食いっぷりだった。

右トモでは吉武さんが一番上のハリにメバル、下のハリにカサゴのダブルを披露。「追い食いを待って上げたらメバルとカサゴのダブルでした」と吉武さん。

私もメバルを釣りたいと思ってマネをしてみると、ゴンゴンと派手なアタリがきて、そのまましばらく追い食いを待っていると竿先がグンと入り込んだ。ゆっくり巻き上げると、これまでにない重量感が伝わってくる。

やがて海面にメバルが浮上し、続いてカサゴも見えた。こんなにうまくいくと思っていなかったので、うれしさも倍増。それを見ていた左隣の山田さんも追い食いを狙ったところまたしてもメバルとカサゴのダブル。

おそらくカサゴが掛かったことで仕掛けが動きエビエサが踊って誘いとなり、メバルが食ってきたのだろう。

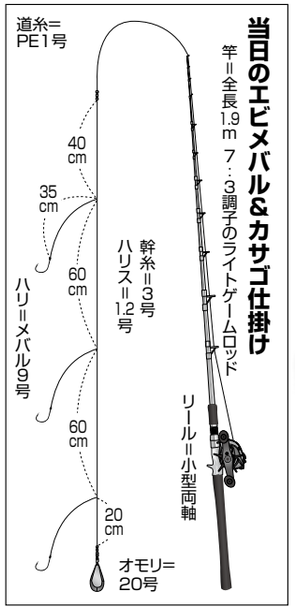
カサゴは大中小と交じるがメバルは20センチ前後の中型が主体。このクラスのメバルなら引き味も十分堪能できるし、食べてもおいしい。

その後は再びカサゴが連発、やがて風が強まったため、14時過ぎに早揚がり。

釣果は15～26センチをカサゴ交じりで11～35尾（当日はメバル2割、カサゴ8割）と上々で、私もメバル2尾、カサゴ10尾を釣り、夫婦2人で食べるには十分な土産となった。

帰宅後はメバルを煮つけにして、甘じょっぱい煮汁に絡めた身を白飯に乗せておいしくいただき、カサゴは空揚げやあら汁にして堪能した。

シーズン初期は主に水深20～30メートル前後を狙うが、水温が上がるとともに10メートルを切る浅いポイントでも釣れ始めるそうだ。それにともないメバルの活性も高まるので釣果アップも期待できるだろう。



•Tackle Guide

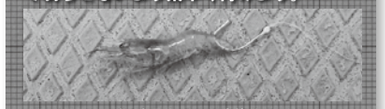
竿は全長1.9メートルのライトゲームロッドを使ったので、仕掛けは扱いやすいよう竿の長さに合わせて全長1.8メートルとした。根掛かりが多いので予備の仕掛けやオモリは多めに用意しておこう。

▲カサゴは大中小交じりでよく釣れた

知っ得！ Tips and Tricks

モエビエサの付け方

エサ付けは尾羽根をカットし、切り口からハリ先を入れて一節でハリ先を背側に抜く。こうすると、尾羽根に近い一節だけにチョンとハリが刺さった状態になり、これがエビの動きを妨げない基本的なエサ付けになる。エサが元気だと食いがよくなるので弱らせないよう素早く付けよう。


▲死ぬとモエビは白くなるので交換する

◉船宿information

東京湾奥東大井

いわた

☎03・3471・1322
（詳細は巻末の情報欄参照）

古高 亘船長

▶料金＝メバル&カサゴ乗合一人1万円（エサ、氷付き）
▶備考＝予約乗合、7時半出船。ライトアジ、シロギス、タチウオ、カワハギ、各種リレーへも出船